授業改善プラン

教科（ 理科 ）

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。改善策として ICT の活用を導入するものは太字

	観 点	1 学期	2 学期		3 学期	小中一貫の 取組
		今年度の取組 昨年度の課題から	分析	具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて	
1 年 生	知識・技能	知識量が生徒によって差が大きくみられるので、なるべく簡単な言葉を選んで授業を進めていった。三年間の理科の基礎として知識・技能を高めていく。	教科書に記載されている写真と定期テストの模式図の違いに対応できない生徒もいた。説明問題の文章力も大きな差がみられた。	定期テストや模擬テストなどの設問の形式に慣れさせる。小テストなどを増やす。ICTの活用として動画などを活用していく。授業内容の復習など家庭学習に力を入れていく。		
	思考力・判断力 表現力	科学的思考を持って物事を多面的に考えて、考察する力をつける。	考察と感想の書き方が混ざっている生徒が多くみられた。実験室での操作や記録のつけ方など、班活動に徐々に慣れていく。	考察について、全体ではなくわからない生徒を集めて指導を行う。班学習や実験班の際は、班員を固定ではなく流動的に変化させる。		
	主体的に学習に 取り組む態度	実験前にどのような表や結果をまとめる枠があれば、実験結果が書きやすくなるかを生徒に考えさせてノートをつくらせた。	教科書の通りに実験を行うと何回結果を記録するのか等、実験操作がイメージできている生徒も多くみられたので、比較的スムーズに実験が進んだ。	授業内容の復習など家庭学習に力を入れていく。		
2 年 生	知識・技能	知識量が生徒によって差が大きくみられる。小学校の内容の確認や基礎を中心に授業を進めた。	1学期は電気分野を行ったが、少数点の計算や教科書の漢字の読みよりなどに苦戦する生徒が多くみられた。用語などを覚えるのに苦戦する生徒が多くみられ、生徒の復習などの時間が足りてはいないと感じている。	知識の定着をはかるため、既習の内容についても、再度小テストを行っていく。授業内容の復習など家庭学習に力を入れていく。		
	思考力・判断力 表現力	オームの法則などで基本的な四則計算の理解が不十分なところがあり、文章の読み取りと公式を利用した考え方が不十分だと考え、定期テスト後に再度オームの法則の単元を実施した。	理科が苦手だと感じている生徒が多い学年である。思考の言語化が苦手な生徒や文章からの立式が苦手な生徒が多い。説明問題などの文章題を空欄で提出する生徒が多いので文章を書く練習や考えた事を整理して発表する練習を多く取り入れ改善をはかる。	ICTの活用として扱いづらい実験は動画や演示実験を活用して理解を深める（デンブンとだ液の反応実験など）。また、実験室にないものを具体的に提示する際に活用する。		
	主体的に学習に 取り組む態度	プリント課題等で先に問題を解き終わった生徒にわからない生徒の補助をお願いしている。生徒同士の関わりでクラス全体の学習に取り組む姿勢を進めていく。	少人数なので問題を解かせている際に困って手が止まっている生徒に個別で時間をかけることができる。一方で、その場では取り組めるが、後日、テスト形式では点数が取れない生徒も多く見受けられたため、学習内容の定着が課題である。	教科書中心ではなく、生徒が知っている知識から話題を広げたり、あえて疑問を残して探求させたりするような授業展開をする。		

授業改善プラン

教科（ 理科 ）

3 年 生	知識・技能	前年度からの化学反応式には苦手意識は多くの生徒が持っていたが、元素記号の名称などや基礎はしっかりと定着していた。電離の化学反応式を学ぶことで、去年の化学反応式の内容も扱いながら授業を行った。	期末考査では、4月からの内容すべてを試験範囲にしたが、その中でもきちんと得点できていた生徒が観られた。苦手である問題でもきちんと取り組む姿勢が観られた。	授業内容の復習など家庭学習に力を入れていく。家庭学習が定着している生徒とそうではない生徒との差が顕著なため、授業内での理解度を上げるための授業を展開する。		
	思考力・判断力 表現力	実験前にどのような表や結果をまとめる枠があれば、実験結果が書きやすくなるかを生徒に考えさせてノートをつくらせた。	実験で結果を何回記録するのか等、実験操作がイメージできている生徒も多くみられたので、比較的スムーズに実験が進んだ。考察の書き方についても教科書以外の進んだ内容について考える生徒もおり、考え方の共有で一人一人が刺激になっていた。	ICTの活用として、一人の生徒が疑問を全体に共有が安易である。また、その場で調べることができるので良い機材である		
	主体的に学習に 取り組む態度	授業中の発言等も積極的であるが、学習に定着している生徒とそうではない生徒の差がある。勉強の仕方がわからない生徒いるため、そういった生徒には簡単な問題から取り組ませていった。	定期テストや小テストでも説明問題を時間まで積極的に埋める姿勢が観られた。80点以上が13名中7名であった。一方、化学に分野が昨年から苦手意識が定着してしまっている生徒もおり、大きく二極化した。	教科書中心ではなく、生徒が知っている知識から話題を広げたり、あえて疑問を残して探求させたりするような授業展開をする。		

カリキュラムマネジメントの視点から